

拝啓 檀信徒の皆様におかれましては益々御清祥の事とお喜び申し上げます。日頃、眞観寺にお心をお寄せいただき有難うございます。

十一月十六日(日)から二十三日(日)迄の八日間で開催された

「小見観音眞観寺 平成二十六年甲午歳大開帳」には推計で一千八百人を超える参拝者が訪れました。

毎日、午前十時位から参拝者は途切れず、また、日を追ってその数は増え、最終日となる二十三日(日曜日)は五百人を超える人出となりました。このように盛会となったのは檀信徒の皆様のお力添えあつての事です。

大開帳にあたっては公私ともに多忙の中、眞観寺総代・世話人方には早朝からの庭の設営や観音堂清掃、開帳時間中は参拝者の案内や時報の鐘、その後の後片付けに毎日のご尽力をいただきました。この開帳は、行田市報にも掲載されましたが、地元にはより詳しい情報を提供しようと、大開帳のチラシを市報と同時に配布しました。地元荒木地区十一自治会をはじめ、長野、北河原、須加、星河、太田(若小玉・藤原)の地区自治会連合会長には各地区自治会への配布にあたりご協力と配慮をいただきました。

今回の大開帳の記名簿には関東一円だけで無く、遠く京都、名古屋や静岡からの名前もありました。どういう方法で大開帳を知ったのか、不思議です。また、大開帳の八日間、一度も雨が降らなかったのは観世音菩薩の妙智力と感じております。

この度の吉縁を誠に有り難うございます。

さて、今年も早いもので年の瀬となり、新しい年を迎えます。

瑞光満ちる平成二十七年元旦、恒例の元旦護摩を観音堂で厳修いたします。

護摩祈願(護摩札)を御希望の方は、左記の「小見眞観寺元旦護摩」をご一読の上、同封のハガキに住所・氏名・年齢・願意を書いてご返送ください。

お申込みはファックス（〇四八―五五六―二二〇〇）でも受け付けます。
 複数体の申し込みの方は、眞観寺に申込書があります。折り返しお送りしますので、電話〇四八―五五六―二六七八までご連絡下さい。
 遠方の方には護摩札を郵送致します。送料は無料です。ご遠慮なくお申し込み下さい。

平成二十六年十二月

合掌

檀 信 徒 各 位

眞観寺住職 中村 重継

小見眞観寺元日護摩

・ 日時 平成二十七年 元日 第一座 午前十時

第二座 午前十一時半

（十二時半に観音堂を閉じます）

・ 場所 眞観寺観音堂 正観世音菩薩御宝前

護摩（ごま）とは

護摩は正しくは「護摩修行」と言います。真言密教の修行の一つで、護摩火中に仏を招き、御仏の真体を観じます。護摩によって煩惱を焼き浄め、大厄を消除し、家内安全、身体健全、商売繁盛等、開運を祈願します。

護摩の願意について

護摩の願意は自由です。眞観寺の護摩は祈願と滅罪の護摩です。次項の代表的な願いがあります。

男女大厄	大 厄			小 厄			厄 年 早 見 表
	後厄	本厄	前厄	後厄	本厄	前厄	
昭和30年生まれ	昭和48年生	昭和49年生	昭和50年生	平成2年生	平成3年生	平成4年生	男性
	昭和57年生	昭和58年生	昭和59年生	平成6年生	平成7年生	平成8年生	女性

- ・ 災厄^{やくよけ}消除
- ・ 家内安全
- ・ 交通安全

（平成二十七年より交通安全の祈願は「護摩札一体」と「交通安全名前入り御守一体」で三千元とします。

追加の「交通安全名前入り御守」は千円です。使い方として交通安全御札を家や事業所に飾り、御守を各車両に携帯すると良いでしょう。

- ・ 商売繁盛
- ・ 身体健全
- ・ 当病平癒
- ・ 心願成就
- ・ 合格成就
- ・ 就職成就
- ・ 工事安全
- ・ 労災絶滅
- ・ 従業員安全
- ・ 方除（方位除）
- ・ 火難除
- ・ 御札（お願いがかなったときに）
- ・ 延命長寿
- ・ 傷病平癒
- ・ 開運満足
- ・ 学業成就
- ・ 工場安全
- ・ 勝利祈願
- ・ 事業繁栄

護摩札は一体に付き一願意です。護摩の準備の都合がありますので、ハガキは十二月二十五日迄にご投函下さい。

護摩祈願料は三千元です。祈願料は申込時だけでなく、元旦に持参されても大丈夫です。

平成二十七年元旦護摩祈願を申し込まれた方には翌年も元旦護摩の御案内を差し上げます。

尚、遠方の方は護摩札の郵送（送料無料）と併せて銀行振り込みをご活用下さい。

群馬銀行 行田支店（374） 普通口座0178339 口座名義 シュウ）シンカンジ

眞観寺正観世音菩薩大開帳の御報告

御挨拶の中でも報告しましたとおり、眞観寺の正観世音菩薩御開帳が無事に成満致しました。ご協力をいただきました関係各位にはあらためて御礼を申し上げます。

配布物などで数えた参拝者の数は次の様になります。

記名簿に記載された名前の数 約七〇〇名

配布したリーフレットの数 約一、四〇〇枚

御開帳参拝記念の小御守の数 約一、五五〇体

記名簿は書かない人が半数以上でした。正観世音菩薩と眞観寺を紹介するリーフレットは「夫婦だから一枚でいいよ」と言う方も二割以上いました。御開帳参拝記念の御守も（出口が分からなくて入口から出たため）渡しそびれてしまった人が一定数いました。

日を問わず二度、三度と拝観になる方も一割くらい居る上に、毎日拝観した方も数名いました。結果、延べ人数では一千八百人は確実に、二千人に近い数字になると思います。寺の住職も含め、寺方で働いた人は延べ百六十人でした。



上の写真は二十二日（土曜日）午後の護摩修行の御札加持、下の写真は御開帳の参道の様子です。参拝者がいないように見えますが、そこは七千坪ある眞観寺境内です。四〇台用意した駐車場は一杯になっても境内には余裕がありますね。

今回は十二年後の小開帳です。今回の経験を生かして運営に当たりたいと思います。健康に留意して次の御開帳に臨みましょう。以上、御報告致します。



参拝者皆さんの声

「このような文化財があるとは知らなかった」

護持してきた歴代住職、檀徒、信徒、地元の方々のお陰です。今後も、護持し、忘れ去られぬよう広報に努めます。

「間近で見られるなんて感激です」

奈良、京都に行っても平安仏をこの距離では見られません。

「リーフレットの写真と比べると・・・」

印刷物の写真は全て県立博物館のレプリカの写真です。本物をご覧になれるのは参拝者だけです。

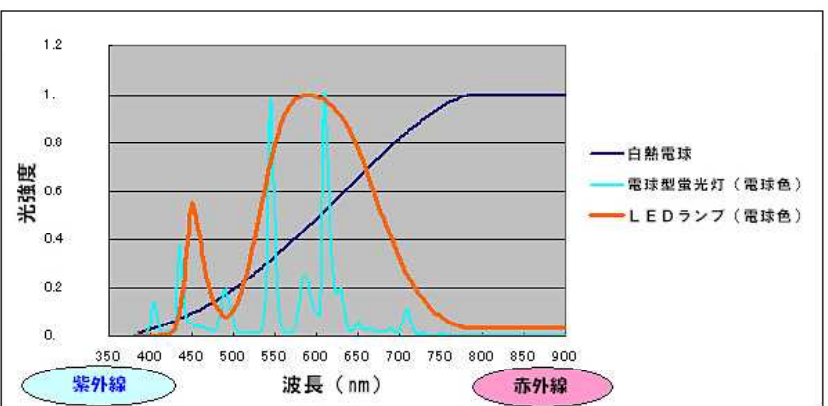
等々、色々なご意見、ご感想をいただきました。「客殿」と「境内」の広さに驚いた方が多かったようです。「こういうお寺があるなんて知らなかった」という意見もY准教授をはじめ多数いただきました。

客殿での給茶接待も喜ばれました。

本堂を見たいと言う方も多くいらっしやいましたが、手数が足りないので、今回は公開しませんでした。本堂が何らかの文化財にでもなったら公開を考えます。

一つ、「何故、観音堂照明はLEDでは無いのか？」という疑問もいただきました。

大きな理由は観音様を護るためです。昔ながらの白熱電球に比べて蛍光灯やLED照明は有害な光成分が多いのです。左下の図は光源による光の波長分布を表したものです。LEDと蛍光灯には波長の短い領域に特徴的なピークがあります。そうして光は波長が短いほどエネルギー値が高いのです。観音様の状態を護るための白熱灯照明なのです。節電の観点では無く、「光の波長とエネルギーの関係」という量子力学の観点から判断しています。



上尾市原市長久寺 寺子屋塾 仏画仏像展

十一月二十二日、二十三日の両日に、上尾市原市にある長久寺学園寺子屋塾による仏画・仏像展が開催されました。

上尾市長久寺の住職は一級建築士で、私が西明寺本堂を設計した縁で知り合いました。

「仏法僧」という言葉がありますが、「仏」は「悟りの境地」、「法」は「仏教経典」、「僧」は私たち住職の事では無く、「経典の実践する人」を表します。仏壇に読経をする人も、先祖のお墓参りに行く人も、巡礼に行く人も、写経をする人も、仏様に関わることを実践する人が「僧」なのです。

その中でも絵画は挑戦しやすい分野だと思います。本職の仏画師が描いた仏画が巧いのは当たり前です。素人が描いた仏画ならば「ひよっ」として我々もこれなら出来るのでは」と思う事ができます。そんな上尾市周辺の、「仏画が好きな皆さん」が描いた仏画の展示会を行いました。こちらも大盛況となり、大成功を収めました！

絵馬の奉納



眞観寺の観音堂内には多くの絵馬や巡礼奉納額が掛けられています。絵馬の奉納は江戸末期が最後のようなので、今回の大開帳を記念し、総代・世話人の協力を得て、平成の絵馬を奉納しました。画題は鎮西八郎ちんぜいはちろうみなもと源 為朝公の流鏑馬やぶさめ図としました。「京彩色中嶋」にて描かれ、東京浅草の仏具商「翠雲堂」で絵馬となりました。「施無畏」額の隣の鎮西八郎を是非御覧下さい。

般若心経を詠む会に講師を招きます。

毎年恒例の「般若心経を詠む会」を、今年は大開帳もありましたので、九月と十二月の十八日に開催します。

今年最後となる十二月十八日の「般若心経を詠む会」では、昨年同様に上池守持宝院の副住職馬場隆法師ばはりゆうほうをお招きして、般若心経の伝授

を致します。

馬場隆法師は昭和五十三年生まれ、京都本山で修行の後、高幡不動で研鑽を積んだ経歴を持ちます。当日は高幡流のゆつくりした般若心経を教授いただけると思います。

大開帳護摩にも五座出仕された馬場隆法師は、元朝護摩の祈願太鼓も奉納致します。音楽の感覚に優れた隆法師の講義をお楽しみ下さい。

日時 十二月十八日（木曜日） 十時～十一時半

場所 真観寺客殿

~~~~~ 来年の干支について ~~~~~

来年は未^{ひつじ}歳です。昔の人は方位に十二支を当てはめて表しました。左の図のように未は七時の方角で、十二支を八方位に当てはめたので、未歳の守り本尊は奈良の大仏様で有名な「大日如来^{だいにちにょらい}」様です。

真言宗は釈迦如来が悟りに至った境地が全宇宙の真理を表した「大日如来」であるとして大日如来の境地を求める宗派です。真理が分かるには勉強や訓練が必要なので、毎日、新しいことを一つでも多く学ぶよう努めます。

興味深い話として、日本へキリスト教の布教にやってきたフランシスコ・ザビエルは当初、全知全能の神「デウス神^{しん}」を「大日」と訳し、キリスト教を説明していたようです。その結果、仏教の一派と勘違いされ、「大日如来なら日本にも有ります。遠くからの布教活動ご足労様」と、僧侶達に歓迎されたりしたようです。その後、真言宗の寺は本尊として大日如来があることに気付き「デウス神^{しん}」をそのまま「デウス」と言うようになって

たよう
です。



未年の守り本尊

「大日如来」観音堂前の八体佛

